

「みんなが通いやすい・通いたいと思える学校を作るにはどうすればいいのか」

杉田ゼミ 3年教育班

1. 研究の経緯と目的

昨今、学校におけるいじめの認知件数や不登校児童数は増加傾向にある。文部科学省の調査によると、令和4年度の国立、公立、私立の小・中学校の不登校児童生徒数が約29万9千人で過去最多となっている¹。また同じく文部科学省の調査によると、小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は681,948件（前年度615,351件）であり、前年度に比べ66,597件（10.8%）増加している²。

そこで本研究では、増加傾向にあるいじめ・不登校の問題に着目し、「みんなが通いやすい学校を作るにはどうすればいいのか」について明らかにする事を目的に、研究を行った。

2. 問題の可視化

各々が学校の問題点を挙げたところ、集団生活の中で、自分の意見が言えなかったり、周りに合わせていじめに加担してしまったりと、主体性や社会力（他社尊重）が育ってない事が問題なのではないかという意見が出た。そこで、「主体性を育てる事はみんなが通いやすい学校を作る事に繋がるのか」を主軸に調査を進める事とした。

3. 「主体性を育てる事はみんなが通いやすい学校を作る事に繋がるのか」に関する調査

初めに、主体性や社会力に関して書かれた文献にて、調査を行った。その結果、主体性や他社尊重の力を育てる事が、他者との共存（学校生活・集団生活）には大切である事が分かった。そしてこの事から、自主性を育てるためには、子供たちがやりたい事をできる自由度の高い学校を作ればよいのではないかと考えた。

そこで次に、自主性を重んじるNPOへのインタビュー調査を行った。その結果、①こどもたちが「自分が自分で良いんだ」と自分の在りようを認められるよう、こどもたちの思いを大切にすること、②大人は、それぞれの気づきを促したり、周囲へ広げたり、揉め事が起こった時にサポートするなど、こどもたちへ干渉するのではなく、こどもたちと伴走する事が大切である事、が分かった。この結果から、子供たちがやりたい事を出来る自由度の高い学校を目指す事は主体性を育てる事に繋がると裏付けられた。

4. 結論

以上の調査の結果から、みんなが通いやすい学校を作るためには、「自由度の高い学校を目指すことで、自分たちのやりたいことを見つけさせ、主体性の成長を促すことがいじめや不登校を減らす最短の道にできる」と考える。

5. 参考文献

(1) 文部科学省、「不登校の児童生徒等への支援の充実について（通知）」、文部科学省ホームページ、https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155_00001.htm（閲覧日:2024年1月18日）

(2) 文部科学省、「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要（いじめ関連部分抜粋版）」P1、
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/5aa667da-fe7f-4ea9-9ee2-7510121e6751/2d6548bb/20231016_councils_ijime-kaigi_dai2_01.pdf（閲覧日:2024年1月18日）